

資料変更箇所一覧

資料名	番号	変更箇所	変更内容		変更理由
			変更前	変更後	
評価結果 (概要版)	11	2ページ	(検証による総合所見) 駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられるものの、令和4年度の評価値については目標未達成となっている。	(検証による総合所見) 駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられる。ただし、定量的な数値で見ると目標未達成となっている。	目標未達成ではあるものの、事業としての効果は発現しているとみて問題なく、一旦文章を区切る方が伝わりやすくなるため。
	12	2ページ	(今後のまちづくり方策) ・自転車利用者の安全な通行を確保するため、交通環境の形成に努める。 ・今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う必要がある。	(今後のまちづくり方策) ・自動車、自転車の安全な通行を確保するため、ナッジなどを活用した方策の検討を行い、交通環境の形成に努める。 ・今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う。	・安全確保に関して、自転車にのみ焦点を当てていたが、自動車事故の件数も多く同様に対策が必要と考えられるため。 ・事故の原因はヒューマンエラーである場合が多く、人の行動を誘導するナッジなどを活用した方策の検討を追加した。 ・文章の構成として、主語を文頭に持ってきた方が理解されやすいため。
評価結果 (事後評価シート)	8	様式2-2	(まちの課題の変化) 記載なし	(まちの課題の変化) 交差点改良や駅前広場の改修により、安全で快適な駅前空間が確保され、イベント開催時には地域住民をはじめ、多数の人が集まり、まちの賑わいが創出されるようになった。	定性的な効果は定量的な事実と同様に重要なものであり、本事業により発現した効果を結果としてまとめるため。
	9	様式2-2	(今後のまちづくり方策) ・自転車利用者の安全な通行を確保するため、交通環境の形成に努める。	(今後のまちづくり方策) ・自動車、自転車の安全な通行を確保するため、ナッジなどを活用した方策の検討を行い、交通環境の形成に努める。	・安全確保に関して、自転車にのみ焦点を当てていたが、自動車事故の件数も多く同様に対策が必要と考えられるため。 ・事故の原因はヒューマンエラーである場合が多く、人の行動を誘導するナッジなどを活用した方策の検討を追加した。
	10	様式2-2	(今後のまちづくり方策) ・今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う必要がある。	(今後のまちづくり方策) ・今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う。	文章の構成として、主語を文頭に持ってきた方が理解されやすいため。
評価委員会資料修正版 (参考資料)	1	14ページ	記載なし	指標と目標の対応表を追加した。	指標と目標の関係が不明瞭であり、理解しづらいため。
	2	15ページ	記載なし	各指標の目標値の設定理由を記載した表を追加した。	指標の目標値設定理由が不明瞭であり、理解しづらいため。
	3	27ページ	(総合所見) 駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられるものの、令和4年度の評価値については目標未達成となっている。	(総合所見) 駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられる。ただし、定量的な数値で見ると目標未達成となっている。	目標未達成ではあるものの、事業としての効果は発現しているとみて問題なく、一旦文章を区切る方が伝わりやすくなるため。
	4	29ページ	(総合所見) 自転車に関連する事故は年平均12件となっており、おおむね横ばいで推移しているため、今後、自転車利用者の安全確保に取り組んでいく必要がある。	(総合所見) 年によってばらつきが見られるものの、車両対車両、車両対自転車の事故件数が大半を占めており、自動車及び自転車の交通安全対策が必要である。	安全確保に関して、自転車にのみ焦点を当てていたが、自動車事故の件数も多く同様に対策が必要と考えられるため。
	5	33ページ	記載なし	(事業後に確認した定性的なまちの変化) 交差点改良や駅前広場の改修により、安全で快適な駅前空間が確保され、イベント開催時には地域住民をはじめ、多数の人が集まり、まちの賑わいが創出されるようになった。	定性的な効果は定量的な事実と同様に重要なものであり、本事業により発現した効果を結果としてまとめるため。
	6	34ページ	(改善策の基本的な考え方) 自転車利用者の安全な通行を確保するため、交通環境の形成に努める。 (想定される事業) 記載なし	(改善策の基本的な考え方) 自動車、自転車の安全な通行を確保するため、交通環境の形成に努める。 (想定される事業) ナッジなどを活用した方策の検討 ※ナッジとは、行動科学の知見(行動インサイト)の活用により、「人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法」とされています。(環境省HP「日本版ナッジ・ユニットBEST資料」より引用)	・上記番号4に関連して、自動車に関する記載を追加した。 ・事故の原因はヒューマンエラーである場合が多く、人の行動を誘導するナッジなどを活用した方策の検討を追加した。
	7	35ページ	(今後のまちづくり方策に関するその他の意見) 今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う必要がある。	(今後のまちづくり方策に関するその他の意見) 今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う必要がある。	文章の構成として、主語を文頭に持ってきた方が理解されやすいため。